

1 自己評価

Ⅰ 評価結果（別紙参照）

Ⅱ 主な分析

○「学校生活（学習・部活動等）に充実感・満足感を持っている。（共通）」

生徒、教職員の評価は非常に高い。保護者からの評価はわずかに下がったが、全体として依然高い評価を受けている。教職員の協力により学校の教育活動を積極的にブログ等で紹介することができた。コロナ後の行事について、すべてを再開するのではなく教育効果を吟味しながら有効な取組となるよう検討して行く必要がある。

○「授業は充実している。（共通）」

生徒の肯定率は3学年とも近年の最高値となっているが、保護者は下がっている。コロナ感染症の収束によって学校での授業実施が生徒の肯定感を上昇させたが、オンラインがなくなったことで、保護者が家庭で授業の様子を見る機会がなくなったことが保護者下降の要因と考えられる。教員の肯定率減少は、R5年度から質問項目を「生徒の学習意欲が高まったか」に変更したため単純比較はできないが、学習意欲を向上させる指導の取組が必要である。

○「学校は進路について適切な情報を適切な時期に知らせてくれている。（共通）」

保護者懇談や合同保護者会、大学訪問、進路講演会などに積極的に取り組んできたこともあり、生徒・保護者ともに肯定的評価が維持できている。従来の取り組みに加えて、保護者への講演会などの工夫の必要性を感じている。今後も工夫をしながら情報発信を続けていきたい。

○「SSHの取組は玉島高校の魅力の一つとなっている。（共通）」

今年度第Ⅳ期目第3年次の取組を進めてきた結果、8割を超える生徒及び教職員がSSHの取組に魅力と意義を感じている。また、SSHの取組が科学技術への興味・関心の向上につながっていると回答した生徒及び教職員も8割を超えており、第Ⅲ期目に引き続き第Ⅳ期目の計画が順調に進捗していると考えられる。ただし、保護者の回答は、生徒及び教職員よりも肯定的回答が低くなっており、生徒との乖離が大きい。その理由を保護者の自由記述から見ると、SSH事業に関連する取組や成果の情報が保護者に十分に届いていないことが考えられる。また、「わからない」という回答が多くなり、肯定的回答の割合が小さくなっている。そのため、総務課等と連携してブログ等を利用して積極的な情報公開を心がけた。

2 学校関係者評価委員名

猪木 直樹（同窓会長） 石井 享治（玉島北中校長） 武田 将典（玉島東中 PTA 役員）
中塚 慎治（玉島テレビ総務部長） 中塚 裕和（太陽トラベル代表） 原田 浩明（玉島商工会議所）
藤井 秀和（PTA 会長） 三木 宏之（玉島小校長） 三宅 正志（岡大大学院特任教授）
山田 秀和（岡大教授） 山根 敬仁（玉島西公民館長） 劉 耕助（ベネッセ Co）

3 学校関係者評価

○地域連携についてはよく連携できているという印象。その方法は今後検討が大切、高校生が街づくりに参画するにあたり、各地域の情報を学校が十分把握できていれば更なる広がりが期待できる。

○学校の取組はコミュニティ形成のための理想的な環境であると感じている。高められる能力を定め、その能力を醸成するための活動を工夫していくことが効果的ではないか。

○地域連携と学力向上は別々の課題ではなく一体として捉えるべきテーマ、鍵は探究活動のカリキュラムにあり、アイデアを吟味していくような探究活動が理想である。

4 来年度の重点的な取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

○SSH事業第Ⅳ期の取組を一層充実させるとともに、第Ⅴ期に向け本校のあり方について検討をしていくことに加え、先導的な取組について研究を重ねていく。

○ベトナム研修やカナダ語学研修の経験を踏まえて国際交流の活性化に取り組む。

○学校運営協議会の更なる充実を図る。

○「地域への参加」ととどまらず、生徒自らが「地域への提案」や「地域の課題解決」などPBLを意識した取組を一層充実させていく。

○ICTの活用などを通して、日常業務の軽減、SSH事業の取組、部活動の活躍・進路実績などの広報活動を充実させる。